

原村誌 下巻

目次

口	絵	八六
発刊のことば	原村誌編纂審議會長	八八
例	言	九〇
		菊池八五郎	九二

第五編 近代

第一章 村の政治	三
----------	-------	---

第一節 町村制施行前の村政	三
---------------	-------	---

戸籍法の制定と戸籍簿 戸長役場と戸長の事務 郡区町村編成法と公選戸長

地租改正と村民の動向 大区小区制と原村域 原村の成立 村会議員と第

一回原村会 民費・税制と予算制度

第二節 町村制施行後の村政	一七
---------------	-------	----

町村制の施行と有給村長 等級選挙と議員 村費と財政規模 納税と滞納
基本財産の蓄積と役場問題

第三節 大正期の村政……………三三三

無等級選挙と村長 役場の組織と補助機関 米騒動と村行政 学校焼失と

移転新築 農村不況と匡救事業

第四節 昭和恐慌期の村政……………四〇〇

村長と村会議員 養蚕農家の救済 恐慌期の村行政 原村経済更正運動

第五節 十五年戦争期の村政……………四七

十五年戦争と国民精神総動員 肅正選挙と村民 役場組織と戦時村財政
大政翼賛会と村政 満州移民と青少年義勇軍 銃後奉公会と防護団・警防団
村常会と部落常会・隣組

第二章 各区の自治と区民……………六二

第一節 大久保区……………六二

総会と議員 総代区長係の選出 区の運営と費用 区の会計

第二節 柳沢区……………六七

位置と特色 会議と役員 区の事業

第三節 八ッ手区……………七一

区の景観 役員と区会 事業と会計

第四節 払沢区……………七六

明治初年の弘沢 区の事業 会計と施設 役員と会議

第五節 柏木区……………八〇

区的位置 会議と諸役員 区の会計 公会所と社殿新築 区役所の改築

第六節 菖蒲沢区……………八四

位置と明治四年の戸口 総会と区会 区長と役員 区の会計

第七節 室内区……………八九

区の概観 会議と役員 郷倉と会計

第八節 中新田区……………九三

区の概観 区会と役員 諸施設 事業と会計

第三章 郡会・県会・国会議員と村民……………九九

第一節 郡会と原村選出の議員……………九九

郡会設立と郡事業 郡財政と原村 原村選出の郡会議員

第二節 県会と議員……………一〇三

筑摩県の下問会議 原村からの県会議員

第三節 国会議員選挙と村民……………一〇七

選挙制度と選挙区 国会議員の選挙と村民の動向 原村の属する選挙区から

の国会議員

第四章 政党活動と村民の動向……………一一四

第五節 家畜の飼育……………二二九

牛馬の飼育 養鶏と養豚 山羊・綿羊と兔

第六章 入会地・林野と村民……………二三七

第一節 入会地と共有林……………二三七

上原山 下原山 南下原山 御射山社地 横見山 広河原山 大沢山

第二節 村有林と共有林……………二五六

林野と原野 村有林 共有林

第三節 植林とからまつの採種育苗……………二六〇

植林 県設原村苗圃 中村子之作とからまつ

第七章 山論・水論と村民の動向……………二六五

第一節 山論と村民……………二六五

山論 俎板原経界論 深山論争 大沢山通路争論

第二節 水論と村民……………二七三

堰網と水利慣行 一之瀬堰山ノ神分口訴訟 立場川引水紛争 柳川・鳴岩

川筋の紛争 水利紛争と村民

第八章 農林業諸団体と関係機関……………二八八

第一節 農林業諸団体と農地委員会……………二八八

農 会 産業組合 農事組合と農事小組合 副業組合 原村森林組合の

創立 農業会 農地委員会

第二節 養蚕業諸団体……………三〇一

養蚕組合 桑園改良組合と養蚕実行組合 原村繭市場利用組合

第三節 農業関係の機関……………三〇五

高冷地試験地 八ヶ岳中央修鍊農場

第九章 商工業の展開……………三一四

第一節 工業……………三一四

明治期工業の概要 大正・昭和前期工業の概要 花火の製造業 藍染業

マッチ製造の試み 高冷地を生かした寒天業 鋸製造業 製糸業 土木

事業の盛工場 早漬けたくあん工場

第二節 商業……………三三一

明治期の商業 大正期の商業 昭和前期の商業

第三節 金融……………三四三

明治十二年開業の正融社 富士見銀行と原村民 信用購買組合による金融

諏訪金融会

第十章 交通・運輸・通信の発達……………三五〇

第一節 交通……………三五〇

明治期の道路と村民 郡道と県道 大正期の道路改修 昭和前期の道路改修

第二節 運 輸……………三五九

通運会社と中牛馬繼立所 明治中期の商品輸送 運送と手車 トラック輸

送 ハヶ岳伐木事業富士見軌道 バス輸送

第三節 通 信……………三七二

原郵便局と村民 電話と村民

第十一章 社会と村民生活……………三七八

第一節 戸口の変遷……………三七八

戸 数 人口の動態

第二節 諸災害と村民生活……………三八三

凶作・風水害と村民 火災と村民 中新田区と八ッ手区の大火

第三節 保健衛生と医療機関……………三九一

伝染病と村民 春秋の清掃と衛生組合 高島病院原分院と諏訪病院原分院

原村隔離病舎 薬と村民 医療機関と医師

第四節 公園と村民……………四〇一

山崎公園 柳沢公園 八ッ手公園 臥龍公園 菖蒲沢公園 下原山公

園 柏木区の公園 室内区の公園

第五節 村民互助と社会事業……………四〇八

村民の助け合い 米騒動と村民 農村不況と救済 職業紹介事業 生活

改善 原村方面委員会

第六節 消防・駐在所と村民……………四一三

消防活動 消防組 施設と設備 原村警察官駐在所

第七節 出稼ぎと村民……………四一九

出稼ぎ 海苔屋 杜氏 天屋者 下駄の齒入れ 冬季間の奉公 行商

第八節 電気と村民生活……………四二一

明かりと生活 電灯と村民 電灯の季節利用 外灯と霜予報 灯火管制

電灯料値下げ問題

第九節 戦争と村民……………四二六

戊辰・西南戦争と村民 明治・大正期の戦争と村民 昭和前期の戦争と村民

徴兵・志願兵と軍人会 馬匹の徴発 兵士の送迎と戦没者 陸海軍属関係

戦没者 満州開拓青少年義勇隊・義勇軍・満州開拓団関係没者

第十二章 学校教育と社会教育の発達……………四五二

第一節 明治前期の初等教育……………四五二

明治六年五校の開校 初期の学校建物 学校世話役・執事・学務委員 初期

期の教員と雇用契約 学校経費と元資金 教科課程 就学状況と就学の奨

励 明治十五年の小学校

第二節 明治後期の初等教育……………四七二

原学校・原尋常小学校・原高等小学校の設立 本校校舎の建築 原泉野高等

小学校 中新田支校新築と区民 本校・分教場の増改築 校則と校訓・教

育目標 教育課程と指導 学校行事と農事休み

第三節 大正・昭和前期の初等教育……………四九六

大正期の教育 登山とスケート 本校焼失と移転 昭和初期の教育 仮

教場の廃止と統一小学校の実現 原国民学校の教育

第四節 補習学校と青年学校……………五一六

専修科教育と原女子補習学校 原農工補習学校 原実業補習学校 原青年

訓練所 原青年学校 戦後の原青年学校

第五節 塾教育・中等教育と村民……………五三〇

私立大同義塾 湖畔学堂 南諏実科中等学校・諏訪農学校 中等教育と村民

第六節 社会教育……………五三九

青年たちの夜学会 小学校同窓会 原村の婦人団体 原青年会と原女子青

年会 原青少年団と義勇隊 各区の図書館 時間励行と修養活動

第十三章 文化の進展と宗教……………五六五

第一節 宗教と村民……………五六五

村の神社と神々 神社整理と神社昇格 諏訪神社と村民の信仰 酉の祭り

と村民 お舟祭りと村民 御柱祭と村民 寺と檀信徒 原村域内の寺院

曹洞宗の寺院 浄土宗の寺院 真言宗の寺院 天理教と村民 大成教

第二節 学芸と史跡……………六〇五

俳句 短歌 文芸活動 原村の芸術家 村民による史誌の編纂

原学校沿革誌 郡史編纂と原村地域史 遺跡と史跡

第三節 報道と村民……………六二七

明治期の新聞と村民 大正期の新聞と雑誌 昭和前期の新聞 原村報

ラジオ受信と村民

第六編 現代

第一章 民主化の進展と村の政治……………六三七

第一節 終戦直後の村政……………六三七

戦争終結と原村民 戦時体制の改革と公職追放 昭和二十年度の行財政

村長の公選と村会議員選挙

第二節 昭和三十年代の村政……………六四四

村長と村会議員 行政組織の再編と財政 町村合併問題と村民の動向 農

村振興基礎調査と年度計画

第三節 昭和四十年代の村政……………六五六

昭和四十年代の財政 原村農業共済組合と農業振興方針 農業政策の転換と

近代化総合施策 農業振興地域整備法の指定と原村の対応

第四節 昭和五十年代の村政……………六六七

昭和五十年代の村行政 村制施行百周年と村民 農業都市・原村を目指して

人権モデル地区指定と村民 昭和五十年代の財政

第二章 区自治の進展……………六七八

第一節 区政の進展……………六七八

現代の区政 大久保区 柳沢区 八ッ手区 弘沢区 柏木区 菖蒲

沢区 室内区 中新田区……………七八八

第二節 開拓により誕生した区……………七〇二

開拓と区の成立 南原区 判之木区 上里区

第三節 昭和後期にできた区……………七〇六

農場区 やつがね区 ペンション区 原山

第三章 県政・国政への参加と政党……………七〇九

第一節 県知事・県会議員の選挙……………七〇九

県知事の選挙と村民 県会議員の選挙と村民

第二節 国会議員の選挙と村民……………七二四

衆議院議員選挙と村民 参議院議員選挙と村民

第三節 原村に成立した政党……………七二三

原村における政党への関心 昭和二十年代に成立した政党 昭和三、四十年代

に成立した政党

第四章 高冷地農業の発達……………七二五

第一節 農地改革と耕地……………七二五

原村農地委員会の成立 原村における農地解放 村有未墾地の解放 耕地

利用の変化

第二章 生産構造の変革……………七三三

経営の変化と生産構成 農業機械化の進展 肥料・農薬と農用施設

第三節 高冷地稲作と転作……………七四二

米生産量の変化 保温折衷苗代の普及 技術の研究と増収 生産調整と転作

第四節 養蚕業と畜産業……………七五二

昭和二十年代の養蚕業 昭和三十年代の養蚕業 玉川生糸組合と原村養蚕業

転換期の養蚕業 牛馬の減少と畜産振興 酪農経営の発達 鶏・豚・肉牛

の飼養

第五節 じゃがいも・麦作・果樹……………七六六

じゃがいもの栽培 麦類の栽培 リンゴ栽培

第六節 洋そ菜・花き・きのこの販売額……………七七二

洋そ菜・花き・きのこの販売額 洋菜とそ菜の栽培 花き栽培の進展

きのこ栽培の導入と普及

第五章 商工業の進展……………七八八

第一節 のこぎり工業……………七八八

鋸の生産量と製造業者 経営の実態 鋸製造の技術と技法

第二節 精密機械と諸工業……………七九四

昭和二十年代の原村工業 高度成長期の原村工業 低成長期の原村工業
低成長期原村工業の経営 諏訪南インター原村工業団地

第三節 商業……………八〇六

昭和二十年代の商業 高度成長期の商業 低成長期の商業

第四節 観光……………八一四

観光開発の歩み 樅の木荘 八ヶ岳中央高原とペンション村

第六章 産業諸団体と関係機関……………八二三

第一節 原村農業協同組合……………八二三

原村農協の創立 原村農協の歩み 農協の組織と事業 農協の合併

第二節 農林業諸団体と農業委員会……………八三一

原村森林組合 原村農業共済組合 原村赤岳四日クラブ 原村農業委員会

第三節 商工諸団体と観光協会……………八四〇

原村鋸工業組合 原村商工会 原村観光協会

第四節 長野県農事試験場原村試験地……………八四六

名称と施設 保温折衷苗代 昭和三十一年度の冷害試験 昭和三十八年度

から同六十二年度の試験 花きと野菜栽培の試験 長期間の調査と試験

第五節 八ヶ岳中央農業実践大学校と関連機関……………八五五

八ヶ岳高等農林講習所 八ヶ岳経営伝習中央農場 八ヶ岳中央農業実践大学
校 農事試験場高冷地支場 八ヶ岳馬鈴薯原原種農場

第七章 交通・運輸と通信の進展……………八六八

第一節 交通・運輸……………八六八

村道・県道・中央自動車道 牛馬車と荷物運搬 諏訪バスと高速バス 自

動車保有の急増と村民

第二節 通 信……………八八〇

原郵便局 電話と電報 原村有線放送電話と村民 原村新有線放送施設

第八章 社会と村民生活……………八八七

第一節 戸口と産業別人口……………八八七

新戸籍法の施行 住民登録と基本台帳 世帯数と人口の推移 産業別人口

の変化

第二節 災害と村民の対応……………八九六

高冷地の自然災害 昭和二十八年の冷害と村民 昭和三十四年の台風災害

第三節 医療・保健と環境衛生……………九〇二

病気と医療機関 原村国民健康保険 原村国民健康保険直営診療所 組合

立諏訪中央病院 原村保健センターと村民 環境衛生と上下水道 尿管・

塵芥・雑排水の処理

第四節 社会福祉……………九一七

社会福祉と年金 原村老人憩いの家 ふれあいセンターもみの湯 原村立

児童館原村保育所

第五章 消防団・消防署……………九二六

原村消防団 原消防署 火災と消防施設

第六節 社会集団……………九三三

原村婦人会 青年会 原村老人クラブ

第七節 農民組合と労働組合……………九三八

原村農民組合 労働組合 原村勤労協

第九章 学校教育と社会教育……………九四三

第一節 六・三制の発足と義務教育……………九四三

戦時教育の廃止と六・三制の発足 原小学校八ヶ岳分校 新教育と原村の児

童 児童数の変遷 校舎の全面改築 原学校P T Aと小中学校別P T A

原中学校の誕生と生徒会 教育内容と生徒の活動 生徒数の変遷と卒業生の

進路 校舎増改築と移転新築

第二節 富士見高等学校原分校……………九六一

諏訪農業高等学校原分校の設置 教科学習と土曜講座 校友会と会誌 生

徒数と中心校への統合

第三節 原村教育委員会……………九六九

原村教育委員会の発足と委員 教育委員会の組織と教育長

第四節 社会教育と公民館……………九七一

公民館の建築と村民 社会教育と公民館活動

第十章 文化とスポーツ……………九七六

第一節 文化と芸術……………九七六

文化・芸術活動と村民 文芸と村民の創作 原村の短歌と俳句 青年会に

よる文化活動 原村演劇クラブの活動

第二節 文化財と文化施設……………九八七

文化財と調査報告書 社会体育館 原村歴史民俗資料館八ヶ岳美術館 原

村埋蔵文化財収蔵庫 原村郷土館 八ヶ岳自然文化園

第三節 新聞・広報・ラジオ・テレビ……………九九四

村民の購読した新聞と広報 ラジオとテレビ 有線放送テレビ

第四節 宗教と村民……………九九九

氏神様と区民 諏訪大社と御柱祭 御射山祭と村民 御舟祭りと村民

寺院と檀信徒 天理教信栄分教会 創価学会原村支部 立正佼成会茅野第

二支部原村地区

第五節 スポーツと村民……………一〇〇七

原村体育協会と村民体育 スケートの発展 原山岳会

第七編 民俗

第一章 村の生活……………一〇一五

第一節 村の生活区域……………一〇一五

集落 八旧新田村 開拓村 農場 住宅団地 ペンション・別荘

生活圏

第二節 区の組織と運営……………一〇一八

区の構成 共有財産と土地・用水 神社・墓地・堂・公会所 諸施設と道

具 区の仕事 区民の権利・義務

第三節 相互扶助と倫理……………一〇二三

相互扶助 村民生活の規制 農耕にかかわる規範 制裁

第二章 族 制……………一〇二五

第一節 家と家族……………一〇二五

家 ひじろ 家族の構成 家族・親族の呼称 奉公人

第二節 相続と隠居……………一〇二九

家長と主婦権 相続と隠居 末子相続 養子

第三節 名字と家紋……………一〇三一

名字と家紋 名字 家紋 屋号と屋印

第四節 同族と祝神……………一〇三五

本家・分家と同族 まきと親戚 組の祝神 まきの祝神

第三章 衣 生 活……………一〇四三

第一節 衣料に用いた繊維……………一〇四三

麻の繊維 麻糸づくり 木綿の普及 絹と庶民 羊毛などの繊維

第二節 機織と染色……………一〇四六

麻と木綿のうち織 絹のうち織 ぼろ機 染色と洗い張り

第三節 仕事着とふだん着……………一〇四八

男の仕事着 女の仕事着 子供の着物

第四節 晴れ着と衣類の保管……………一〇五二

嫁入り衣装と婿の正装 よそ行きと喪服 嫁入り荷物 衣類の手入れと保管

第五節 寝 具……………一〇五五

すべ布団としきね 夜着と掛け布団 寝巻きと蚊帳

第六節 履物・雨具・傘など……………一〇五六

履物 雨具 手っ甲・脚絆・足袋・手袋など

第四章 食生活……………一〇六一

第一節 主 食……………一〇六一

炊き込み飯とむすび 餅とだんご そばとうどん

第二節 副食・間食……………一〇六四

汁の類 野菜を使ったおかず 魚・肉など 野草・山菜・果実 食間の

食べ物

第三節 調味料……………一〇六九

味噌 味噌 たまりと澄まし汁 醤油・酢・砂糖

第四節 食事に關する習慣……………一〇七二

ふだんの食事 晴れの食事 葬式・法事の食事 冬の野菜の保存

第五節 飲料水と食食用具……………一〇七六

清水・用水と井戸 いけす 炊食用具と食器類

第五章 住生活……………一〇七九

第一節 屋敷と建築儀礼……………一〇七九

屋敷の環境と条件 屋敷内の建物 庭と樹木 屋敷内の馬頭観音など

建築儀礼 土台回し・建前・棟上げ

第二節 母屋の構造と利用……………一〇八三

母屋の構造 屋根のふき替え 土間の利用 部屋の配置

第三節 土蔵・蚕室と付設建物……………一〇八七

土蔵と隠居屋 蚕室 外便所 納屋と馬屋

第四節 防風・防寒・採暖などの施設と用具……………一〇九〇

くねと風かご 火ばち・湯たんぼ・こたつなど

第六章 農耕と養蚕……………一〇九三

第一節 稲作……………一〇九三

種まきと苗間 水稻の品種 田の神様と苗ば 婿のけら追い 穂稗捨場

夜刈りと野こき場 糶の乾燥 藁の始末

第二節 畑 作……………一〇九七

作物の種類 作物のまきつけ 木障伐り 作場道と馬入れ

第三節 農業諸慣行……………一〇九九

小作慣行 水利慣行 境界の慣行 ゆい

第四節 馬 と 牛……………一一〇一

馬の飼育 馬の仕事 馬具と運送車 馬の売買と軍馬 馬の墓場と馬頭

観音 馬の年越しと牛の飼育

第五節 漁 と 猟……………一一〇五

魚とり 狩 猟

第六節 穴倉と藁細工……………一一〇六

穴倉作り 藁細工

第七節 養 蚕……………一一〇九

桑畑と管理・経営 蚕の飼育 収繭と蚕種業

第七章 交通・運輸・通信……………一一一五

第一節 道の呼び名と道しるべ……………一一一五

道の呼び名 道普請 分岐点と道しるべ

第二節 物の運搬と用具……………一一二一

人力運搬 大きい物の運搬 馬と車による運搬

第三節 旅の習俗……………一二二五

旅の見送り 昔の旅

第四節 伝達と連絡……………一二二七

近距離の連絡 遠距離の連絡

第八章 人生儀礼……………一二二九

第一節 妊娠と出産……………一二二九

妊娠と帯祝い 妊娠中の禁忌 お産部屋 出産 産後

第二節 育児と育児に関する諸儀礼……………一二三二

新生児と哺乳 三つ目とお七夜 お宮参り 食い初めと初節句 初誕生

の祝い

第三節 婚 礼……………一二三五

結婚 結婚の相手 仲人 手じめ・酒入れ 結納 出入り初め

結婚の季節 嫁の荷運び 見立てと婿入り 祝言 祝言の席 鉄槌

付けと床入り 新婚の披露 里帰り 離婚と再婚

第四節 葬 儀……………一一四五

死亡 死亡の通知と期日 通夜と湯灌・納棺 死者の身支度 門牌

葬儀の準備 香典とお返し 告別式と出棺 野辺送り 埋葬 野帰

りと精進落とし 葬式後から一周忌まで 年忌の法事 墓地 特別な

葬法 形見分けと位牌分け 唐沢山 神式葬とキリスト教葬

第五節 年齢に伴う儀礼……………一一五七

帯祝い 七つ坊主 七五三の祝い 一人前の祝いと成人式 年祝いと厄

年 還暦の祝い 古稀の祝い 喜寿の祝いと傘寿 米寿の祝い 卒寿・

白寿・百寿の祝い

第九章 年中行事……………一一六二

第一節 正月の準備と年とり……………一一六二

餅つき 松飾り・注連飾り 年棚と洗い物 お年とり

第二節 大正月・小正月の行事……………一一六四

二年参りと初詣で 元旦の食事と習慣 仕事始め・書き初め 恵比須様・

蟹の年とり 七草と七草粥 お歳開き 餅つき・繭玉作り 農具の年と

りと作初め お宿 道祖神祭り 悪魔払い・お斎日 山の神祭りと二

十日正月・晦日正月

第三節 春の行事……………一一七一

節分 事八日と初午 雛の節句 春の彼岸・社日参り・灌仏会 菖蒲

の節句

第四節 夏とお盆の行事……………一一七四

田植え祝い 七夕 灯籠立て お盆の行事

第五節 秋から冬の行事……………一一七六

十五夜 秋の彼岸・菊の節句・十三夜 十寒夜・恵比須講・二十三夜待ち
稲上げとこぼし上げ 事じまい・冬至

第十章 俗信と民間療法

第一節 俗 信

予兆 忌み ト占 まじない

第二節 民間療法

病氣・けがの平癒祈願 病気の療法 けがの療法 日常生活における療法

民間薬

第三節 大正期調査の俗信と民間療法

大正初期の譬喩・禁圧の調査 大正初期の伝承と迷信

第四節 昭和後期調査の俗信と民間療法

昭和四十年代の調査 昭和五十二・三年の調査

第十一章 信 仰

第一節 原村のお祭り

神仏と祭り 津島神社の祭り 厄神祭り 菖蒲沢の獅子舞い 臥龍様の祭り 虚空蔵様の祭り

第二節 屋内と屋敷の神様

屋内の神様 屋敷内の神様

第三節 講と路傍の神仏……………二〇四

講 伊勢講 御岳講 駒ヶ岳講 赤岳講 三山講 妙義講 山の

神講 三峰講 秋葉講 念仏講 庚申講 二十三夜講 蚕玉講

金毘羅講 成田講 明治神宮講 大大講 大大講 敬神講 松尾

講 西宮講 観音講 太子講 水神講 弁天講 大六天講 金山

講 稻荷講・八剣講 神武講・善光寺講 高尾講 御湯花講 回国巡

拜記念碑

第四節 道祖神……………二二九

道祖神

第十二章 民俗芸能と祭り……………二二二

第一節 芸能……………二二二

太神楽 村芝居 長持

第二節 民謡……………二二四

民謡 歌う場と服装 採譜

第三節 村文化財指定の民謡……………二二九

指定文化財の民謡 歌詞の調査 コチャかまやせの節の歌詞 エーヨー節

の歌詞 踊り方 採譜とレコード化

第四節 わらべ唄と遊び……………二三六

わらべ唄の調査収集 わらべ唄の採譜 遊び

第五節 祭りと村民……………一二四九

御柱祭 小宮祭 原山様 村祭り 相撲

第十三章 口頭伝承……………一二五六

第一節 原村の伝説と民話……………一二五六

大正期調査の伝説 昭和前期の伝説の記録化 昭和後期に記録化された伝説

と民話

第二節 原村伝説の記録……………一二六二

神通力の観弘さま くらんど林の狐 稗一石で売られたお寺 神勅嘉兵衛

不動 狐の供養塔 管 狐

第三節 ことわざ・しゃれ・なぞ……………一二六七

ことわざ しゃれ なぞ

第十四章 方言……………一二七二

第一節 原村の方言……………一二七二

原村方言の位置 方言の調査

第二節 原村方言集……………一二七五

原村での方言語彙収集

付 録

原村地字図……………二二九

原村地字名表……………一三〇〇

年 表

原村史年表……………一三〇七

(明治元年より平成四年まで)

写真・図・表目次……………一三四〇

あとがき……………一三四一

村誌編纂室運営要綱昭和六十一年十一月二十七日
昭和教育委員会告示第一五号

原村誌編纂審議会条例昭和六十一年十二月二
十五日条例第一九号

原村誌編纂審議会名簿

原村誌編纂事務局

原村誌編纂専門員

原村誌編纂室

原村誌下巻執筆者一覧